

修学旅行

11月8日（水）から11月10日（金）まで2泊3日で2学年が福島に修学旅行に出かけてきました。

初日は、Jヴィレッジで「アイマスクサッカー体験」を行いました。プレイヤーはアイマスクで視覚を閉ざして、指示役の指示でサッカーを行いました。続いて、食育プログラムでINBODYの計測を行い、「アスリートにとって食事とは」のテーマで講話を聞いた後に、実際に日本代表等アスリートに提供しているメニューを食べてみました。

2日目は、桧葉遠隔技術開発センターで「ロボット操作体験」を行いました。午後は「アクアマリンふくしま」に移動し、震災ガイダンスを受けた後、施設見学をしました。



修学旅行最後の夜は、ホテル「モノリスタワー」に宿泊し、ファイヤーダンスとフラショーを観覧し、生演奏とダンスの迫力や華やかさに圧倒されました。記念にフラガールと写真撮影を行いました。

最終日は、会津若松で「鶴ヶ城」を見学した後、班別に別れて、会津若松市内のタクシー研修を行いました。学びの多い思い出に残る修学旅行となりました。

〈生徒の感想より〉

【アイマスクサッカー体験】

○アイマスクサッカーは思った以上に難しく、目が見えないので音だけを頼りにしなければなりません。その上、相手選手もアイマスクをつけているので、ぶつかることが多々あります。でも、個人的には指示役の方が難しかったです。状況を口で説明するのが難しかったです。



○私がJヴィレッジで学んだことは、まず始めに視界の情報です。普段私たちは目に見える情報を頼りに活動していますが、視界が突然見えなくなると、まともに歩くことができずに、1人では何もできませんでした。その代わりとして、耳から入ってくる仲間の指示やボールの鈴の音で、位置が少しずつわかるようになりました。

次に私が学んだのは、仲間との協調性です。私は指示役をした際に、ボールの位置がうまく教えられず、とても難しく感じました。相手の人も指示がないと動けないので、大変でしたが、少しずつ指示を出せるようになったのでうれしかったです。この体験をしてから、仲間と協力をしながら活動することはとても大切だと思いました。

【食育プログラム アスリートフード体験】

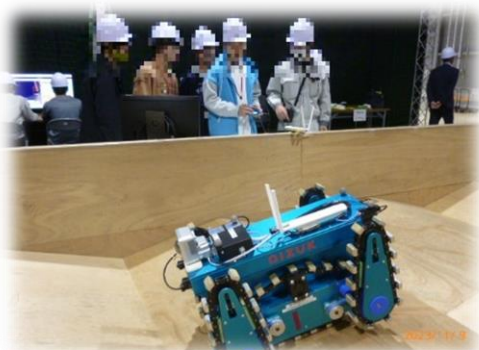
○INBODYの計測は、いわゆるアスリート選手が自分の身体の水分量や体重、筋肉量を測るというものです。私も測りましたが、体重と筋肉量を含め、痩せすぎだと言われてしまいました。このようにしてアスリート選手は日頃から自分の身体の筋肉量などを計測し、それに合わせて食事をとります。改めて食事の大切さがわかりました。



○私が印象に残ったことは、アスリートの食事の基本形として、毎食、主食・主菜・副菜・牛乳・果物をそろえることがすすめられており、食事で摂取しきれない分は捕食を活用するなど工夫が重要なのだということです。私はアスリートではありませんが、好き嫌が多く偏食なところがあります。ですから、今回学んだことを活かし、バランスのとれた食事ができるようにしたいと思います。



【ロボット操作体験】



○ロボットはただのロボットではなく災害時に使う救助用のロボットです。操作をする時はゲームのコントローラーを使って操作をしました。ゲームが得意な人ほど、すぐ上手になっていたと思います。ドローンを操作する時も説明とシミュレーションをしてから行いました。

○私たちは実際に操作したわけではありませんが、担当の方がよく説明をしてくださりながらV Rを使って事故当時の原発の内部を見せてくださったことがとても心に残っています。当時の記憶を生々しく感じる事ができたので、とても良い体験になったと思いました。



○ロボット操作の体験をし、福島第一原発の解体について聞きました。私も当時まだ小さかったものですから、あまり覚えていませんでしたが、原発の事故の怖さを実感しました。

【異文化体験 ファイヤーダンス&フラショー観覧】

○前半のゆったりとしてきれいなフラダンスもとても良かったし、途中で子どもたちがステージに集められてフラダンサーのお姉さんたちと一緒に踊っている場面もあって、とてもかわいかったです。ですが、後半の盛り上がりがやはり一番良く、男性のダンサーによる火を使ったダンスや多くのフラダンサーによる激しく情熱的なダンスなど、フラショーはみんなの心に残るとても印象的なイベントだったと思います。



【震災ガイダンス・アクアマリンふくしま見学】

○「震災ガイダンス」で自然の怖さを知りました。3月11日14時46分に大地震が「アクアマリンふくしま」を襲い、約30分後に津波が押し掛けてきました。津波によって道路は水浸しになり、何もかも流されてしまい、逃げられなくなっていました。海はコンテナなど沈没してしまった船などが流れていました。津波は来ては戻っての繰り返しでした。水がなくなった後は、駐車場は地割れし、強化ガラスは割れ、展示生物は750種、20万点のうち9割が流されたり、窒息死により失われたりしてしまい、従業員全員が絶望しました。けれども、当時の館長さんのリーダーシップ力は従業員全員の心を動かしました。そして従業員のチームワークでは、辛い仕事でも楽しく作業をし、失ってしまった展示生物は、他の水族館から援助してもらい、わずか4か月で復旧することができました。私は、人々が支えあってこそ今があると思いました。

○ガイダンスでは、震災当時撮影された映像やスクリーンの資料を見ながら話を聴きました。そこでわかったことは3つあります。1つ目は、リーダーシップの大切さです。当時の館長の思いきった決断が復旧に大きく関わったそうです。このことから、何事にもチームを支える人の大切さを学びました。2つ目は、チームワークの大切さです。「復旧に向けての協働作業が復旧への意識向上につながった」と話されていました。このことから、どんな困難も後ろ向きに考えず、前向きに考え、人と協力する重要性を学びました。3つ目は、絆・協力・援助のありがたみです。復旧のために、多くのボランティアの参加や復旧作業をする職員への食料援助、展示する魚の無料提供など様々な助力を得たそうです。このことから、人の温かさや、日々の人との交流の大切さを学びました。



【鶴ヶ城見学・タクシー研修】

○特に印象に残っているのは、3日目の鶴ヶ城内の見学です。鶴ヶ城は、城下町の南端に位置し、会津藩の政庁として会津の政治の中心となり、幕末の戊辰戦争では激戦地となりました。場内は撮影禁止の場所もあり、厳かな雰囲気を感じることができました。城内には人物についての説明文や歴史表、刀のレプリカなどがあり、中には本物と思われる刀もありました。また、この会津の地は、新島八重ゆかりの地であり、鶴ヶ城会館では「やえちゃん」と呼ばれるマスコットキャラクターがいる等、かなり新島八重を前面に出していました。新島八重という名前は前から知っていたので、事前知識も相まって非常に楽しく、学びのある城内見学となりました。

○タクシー研修では、私の班は、ラーメン屋、甘味処、美術館に行きました。どこも雰囲気が良く、とても楽しかったです。私は団体行動や旅行が苦手でしたが、今回はとても楽しく安心できました。

